

新たな学校づくり計画鶴川地域の統合計画変更を求める請願

請願要旨

2026年4月に予定されている鶴川第三小学校、鶴川第四小学校の統合計画については、2021年1月25日第10回まちだの新たな学校づくり審議会で、当初の鶴川二小と鶴川三小の統廃合計画が大本から変更がされました。審議会の中では、資料1、5ページには「…鶴川第三小学校、鶴川第四小学校においても2030年時点で小学校の適正規模である18学級を下回り…」とあり、前提が町田市の独自適正規模18から24学級を基本に審議されています。この計画の資料では、鶴川第2小学校も含め3校は、2040年まで12学級を維持している資料が出されています。また、資料7では、「鶴川第三、鶴川第四」の統合可能年度を2020年とし、727人、21学級と想定、鶴川西地区小学校基本計画での想定は、2026年608人、20学級という試算でした。そして来年、統合予定児童数は、737人、24学級です。現在、順に17学級、13学級、14学級であり、当初の計画よりも児童は減少傾向にあるといえる状況でしょうか。約130人も児童は想定よりも増えています。鶴川二小は昨年の町田市の推計では、446人。しかし今年の児童数は、463人で17人想定より増。隣の、大蔵小学校は今年20学級、614人。鶴川地域の小学校は、減少傾向にあるといえない状況は明らかではないでしょうか。

この審議会でどこの学校を残すのかと、児童数と候補地学校への通学を「スクールバス利用」という前提で審議されていますが、これは新設校ができあがってからの未来絵図であり、建設に係る統合の議論がされていません。資料7にある「学校候補地から直線距離で2キロ(徒歩で約30分)超の場所に居住する児童」がこの時点で4人いますが、正にそこが建設期間に不利益を受ける児童です。ここではスクールバス利用ということも検討されているのに関わらず、どうして建設期間である統合時にその配慮が受けられないのか、おかしいのではないのでしょうか。確かに、路線バスはあります。ですが、減便も重なり、混雑している路線バスに児童が乗車することが現実的でしょうか。また、計画上、不利益を受ける期間にバス代を全額支給するぐらいは当たり前。そして、スクールバスが市議会でも採択されているのならば、教育委員会も予算を作らなければいけないのではないのでしょうか。

通学だけではなく、新校舎での統合であれば、児童数が増えてもゆとりある大きな学校が教育環境となりますが、今ある学校に統合をします。誰かが、どこかは、犠牲を払うということを前提にしていることが問題ではないですか。大きな教育環境の変化を受けなければならないような計画は、時間をかけて周知し、できるだけ負担がないよう努め、子どもたちが学校に通える義務を果たすのが、行政の務めだと考えます。

文教委員会において、このことに対して教育委員会担当は、「一過性の状況は生まれる

が、その後は落ち着いていく…」という答弁をされました。こういった発言は、今の児童に負担を押しつけています、といているのに等しいと感じます。

3月に改訂された指針では、

○2030年度までに、小学校であれば12学級未満(11学級以下)、中学校であれば9学級未満(8学級以下)となる学校の統合及び統合に伴う建替え及び改修を優先し、それ以外の学校統合を予定している地区及び統合を伴わない建替校(単独建替校)の計画は延期する。

○単学級化しないまでも、2030年度の時点で統合対象校双方が小規模化し、今後も児童・生徒数が減少していくことが見込まれる地域を優先する。

鶴川の三校の計画は、この2点の条件にどちらの学校も合致しません。

決まったことだからとせずに、見直しを求めます。

また、小山田小学校計画のように、新校舎建設を行い、統合をする計画にできないのか検討をお願いします。

この第10回審議会では、鶴川第二中学校と真光寺中学校を統合すると2040年においても21学級を想定しています。町田市の適正規模18学級の上限を超えているとしています。そのことから、隣接する鶴川第三小学校を廃校にする計画に進みました。

今年、鶴川第二中学校は20学級、683人。1年生は35人学級であり、2年生、3年生も35人学級を進めていくと、2年生は7学級、3年生は6学級。鶴川第二中学校は東京都公立中学校607校中、18番目に大きな学校(2023年)ですが、少子化が進むことで、2040年まで同じ規模の学校ということは、全体の中でも突出して大きな学校になります。また、今、通学生徒が多いのは三輪地域ということです。三輪地域からの通学は、2キロです。三輪地域は鶴川の中でも、小田急線を超えての通学でもあり、ずっとその負担軽減は求められてきました。鶴川第二中学校に真光寺中学校を統合するのならば、その前に、三輪中学校を新設し、生徒数の環境整備をおこなってから、統合するというのが、この地域の教育環境、まちづくりとしてもじっくりくるものと考えます。

鶴川駅の開発に伴い、子育て世帯の流入が期待されています。三輪地域の路線バス利用も格段によくなり、少子化の煽りを受けても大幅な人口減少を食い止めることができる地域です。だからこそ、子どもたちが安心して学校に通える環境を考えることが、少子化対策ではないでしょうか。

2026年度		鶴川第三小学校、鶴川第四小学校統合時 児童推計												特別支援学級				
学校名		1年		2年		3年		4年		5年		6年		合計	知的	情緒	合計	
①	鶴川三小	児童数	48	24	54	27	51	26	50	25	60	30	75	25	337			
		学級数	2		2		2		2		2		3		13			
②	鶴川四小	児童数	54	27	70	35	65	33	60	30	68	23	82	28	399			
		学級数	2		2		2		2		3		3		14	3	3	6
③	①+②	児童数	102	34	124	31	116	29	110	28	128	32	157	32	737			
		学級数	3		4		4		4		4		5		24			

請願項目

- ・2026 年 4 月予定の鶴川三小・鶴川四小の統合延期を求めます。
- ・真光寺中学の廃校の前に、三輪中学校を新設することを求めます。